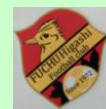


平成31年2月9日

# 風は東から



To be continued...

平成最後の選手権は、青森山田が優勝!!  
東高は冬の鍛錬期を折り返す!!

## 平成最後の鍛錬期も折り返し地点通過!!

## 二月は毎週末「東高 Winter Soccer Carnival」徹底的に揉まれ遅くなる !!

平成最後の選手権となった「第97回全国高校サッカー選手権大会」の決勝戦は、前回の準優勝校で雪辱に燃える**流経大柏高校**と今年度のプレミアリーグ EAST で準優勝だったスター軍団擁する**青森山田高校**の一騎打ちとなりました。今大会でも、両校はお互いジュニアユース年代のトップレベルの選手が集まり（集める）、下馬評通りの決勝戦の組み合わせとなりました。

レベルの高い選手たちのゲームだけあって、とてもスピーディーなゲーム展開の中、両チーム Jリーグ内定の選手たちが要所々々でゲームをコントロールし、ゴールも決め、51000人の観衆を沸かせました。結局、タレントの枚数が多かった青森山田高校が**3-1**で勝利し、選手権二回目の優勝を飾り、全国 4056 校の頂点に立ちました。

青森山田高校の選手並びにスタッフの皆さん、**優勝おめでとうございます!!**



＜平成最後の選手権決勝は、個人能力の高い選手のいるチーム同士の対決となった＞

## 東京の子どもたちが全国へ散らばっていく… 東京にも嘗ての、王者帝京高校のようなチームの復活を!!

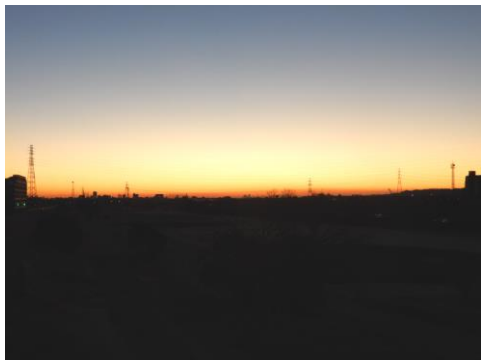
高校サッカー選手権のパンフレットを北海道～沖縄まで見てみると、東京出身の子どもたちが全国各地に散らばっているのが分かります。基本的に公立高校では、越境入学はありえませんが、私立の学校へは、他県のサッカー強豪校へ、親元離れて入学（入部）することは可能です。中には、「寮生活で自分を鍛えたかった」という、高校サッカー少年の声もありました。

Jリーグができて四半世紀が経過し、サッカーが全国に普及し地域格差が小さくなってきていますが、高校野球のようにいい選手を中学校時代からスカウティングし、勧誘するというのが、高校サッカーでも当たり前ようになってきました。もちろん、実力も魅力のあるチームだからこそ、子どもや保護者、指導者も行くのでしょうか…。いい選手を集めて勝つ（強化）も大切ですが、選手を育て（育成）世界の舞台で通用する選手にすることは果たしてできているのでしょうか？そんな、一抹の不安も感じながら平成最後の決勝戦を観戦していました。

## 東高サッカー部冬の風物詩「寒稽古」第一弾!!

三学期がスタートして、二年生の修学旅行明けの翌週から五日間（7:00～8:15）、サッカー部の恒例行事となった「寒稽古」第一弾が行われました。東高サッカー部の寒稽古は、今年で五年目となり、冬の恒例行事としてすっかり定着しました。一年間で一番寒い冬の朝に、いつもより早く起床して、外がまだ暗い中で学校へ向かう。いつもとは違う空気の中で仲間とボールを蹴ることはとても新鮮です。また、寒稽古では、サッカーに対する自分自身の気持ちが本気なのかどうか突き付けられます。今年は、ボールを複数使ったトレーニング「脳トレ」にトライし、早朝から身体だけではなく、頭にもいい汗をかくことができました。

尚、「寒稽古」第二弾は、2月18日～行われます。



<自分の本気度をチェックする「寒稽古」では、普段見られない風景が目に入る!!>

## 2019 鍛錬期 も折り返し地点を通過!!

早いもので、立春も過ぎ、冬の鍛錬期も折り返し地点を通過しました。今年は、暖冬と乾燥で久しぶりにインフルエンザが猛威を振るっています。サッカー部も一昨年ほどではありませんが、修学旅行明けからインフルエンザに日替わりで罹り、ここに来て小康状態となっています。

毎年、東高サッカー部の三学期のTRでは、新シーズンに向けて原点に戻り、身体つくりのためフィジカルTRのメニュー量が増え、一年間のうちで最も負荷のかかる厳しい時期、まさに「鍛錬期」と呼んでいます。ここをやり切れるかが、春先の自分の立ち位置の分かれ目となることは、子どもたちも十分承知しています。古今東西強豪校といわれるチームは、この冬の鍛錬期にガッツリ追い込んでいます。つまり、この時期に追い込めないチームに未来はありません!!東高サッカー部も、強豪校に競り負けないよう冬の厳しいTRで、心も身体も鍛えて逞しくなり、先ずは春のシーズンインまでに、もうひと回りもふた回りも成長できるように、チーム一丸となり全力で取り組んでいきたいと思えます。

また、二月の毎週末には、恒例行事となった「東京－神奈川対抗戦」が開催されます。フェスティバル形式で各チーム二ゲームは確保しています。実践を通して、平日のTR成果をチーム全体に浸透させ、それを確認するための重要なゲームとなります。また、実戦で見えてきた課題を日頃のTRにどのように意識して取り組んでいくのか?この繰り返しを意識できるかどうかの差が、春の新シーズンを迎えた時に大きな違いを生みます。東高サッカー部では、子どもたちが、常に創意工夫しチャレンジする姿勢を身に付ける環境やスタッフが用意されているので、それを活かして、もっと貪欲に主体的にプレーして欲しいと願っています。

### <After the Game>

さて、鍛錬期も折り返し地点を通過しました。新シーズンに向け、*F-Higashi Style*の進化がTRMを通して垣間見られるようになってきました。一歩ずつではありますが、厳しい山頂を目指し、チームで力を合わせながら前進していきます。引き続き、サポート宜しくお願いします!!